

令和7年度県立病院事業経営評価委員会 次第

日 時 令和8年2月2日（月）
14:00～15:30
場 所 杉妻会館3階 百合

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 県立病院事業経営強化プランの令和6年度の実施状況について

(2) 県立病院事業経営強化プランの一部改訂について

(3) 宮下病院建替え整備事業について

(4) 双葉地域における中核的病院整備事業について

4 閉 会

※ マスコミフルオープン

令和7年度県立病院事業経営評価委員会 席次

日 時：令和8年2月2日(月)
 14:00 ~ 15:30
 場 所：杉妻会館 3階 百合

【Zoom出席者】
 菅野 智行
 委員

鈴木 弘行
 委員長



木下 くに子
 委員

秦 千代栄
 委員

湯澤 仁志
 委員

佐藤 博子
 委員

堀川 章仁
 委員

渡部 正義
 委員

次長	管理者	局長	課長 (説明)
----	-----	----	------------

ふくしま医療センター こころの杜	宮下病院	局主幹	主幹 (司会)
---------------------	------	-----	------------

南会津病院	ふたば医療センター 附属病院	ふたば復興診療所	病院局担当
-------	-------------------	----------	-------

○ ○ ○ 報道席 ○ ○ ○

出入口

※ 受付は会場外側に設置

令和7年度県立病院事業経営評価委員会 出席者名簿

【委員】

		敬称略		
	所 属 等	役 職	氏 名 (五十音順)	備考
1	一般社団法人福島県精神科病院協会	会長	菅野 智行	Zoom
2	社会福祉法人福島県社会福祉協議会 地域包括・在宅介護支援センター協議会	副会長	木下 くに子	
3	公益社団法人福島県看護協会	会長	佐藤 博子	
4	公立大学法人 福島県立医科大学	理事	鈴木 弘行	委員長
5	社会福祉法人みしま	理事長	秦 千代栄	
6	一般社団法人双葉郡医師会	会長	堀川 章仁	
7	福島県厚生農業協同組合連合会	管理部長兼 双葉厚生病院事務長	湯澤 仁志	
8	南会津町	町長	渡部 正義	

※ 委員任期 令和8年3月31日まで

【事務局】

	所 属 等	役 職	氏 名	備考
1	病院局	病院事業管理者	挾間 章博	
2	病院局	局長	菅野 崇	
3	病院局	局次長	熊田 昌由	
4	病院局病院経営課	課長	武内 正志	
5	病院局病院経営課	局主幹兼副課長	阿部 浩陽	
6	病院局病院経営課	主幹	望月 洋平	
7	県立ふくしま医療センターこころの杜	主幹（兼）事務次長	桃井 茂樹	
8	県立宮下病院	事務長	齋藤 敦	
9	県立南会津病院	事務長	森澤 一郎	
10	県ふたば医療センター附属病院	事務次長	国分 勝裕	
11	県ふたば医療センター附属 ふたば復興診療所	次長	遊佐 昌志	

県立病院事業経営評価委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 県立病院事業経営強化プランの取組状況の点検・見直しや今後の病院経営のあり方についての検討等を行うため、経営状況分析の専門家、学識経験者、医療関係者等で構成する「県立病院事業経営評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議し、意見・提言を行う。

- (1) 県立病院事業経営強化プランの進捗状況等に関する事
- (2) 毎年度の経営方針の進捗状況等に関する事
- (3) 今後の病院経営のあり方に関する事

(構成)

第3条 委員会の委員は、8名以内とし、経営状況分析の専門家、学識経験者、医療関係者等の中から病院事業管理者が選任する。

2 委員の任期は、委嘱した日から翌年度末までとする。

ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、病院事業管理者が指名するものとする。

3 委員会は必要に応じ、委員長が召集する。

4 委員長は委員会を代表し、委員会の進行をつかさどる。

5 委員長に事故等あるときは、委員長が指名した副委員長がその職務を代理する。

(意見の聴取)

第5条 委員長は、必要に応じて専門的助言及び意見を得るため、委員会に関係者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、病院局（病院経営課）において処理する。

(雑 則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成19年6月26日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年6月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月16日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年10月31日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年7月2日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年4月1日から施行する。

令和6年度県立病院事業経営評価委員会からの意見への対応状況

令和8年2月2日
福島県病院局

<p>委員会からのご意見</p>	<p>県立病院が果たすべき役割を踏まえ、関係機関と連携して人材の確保及び育成を図るとともに、地域の実情を踏まえた体制づくりや医療サービス向上に向けた施設の環境整備を進めるなどして、更なる医療の質の向上及び経営効率の改善に取り組むこと。</p>
<p>対応状況等</p>	<p>【南会津病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南会津地域唯一の救急告示病院として、救急応需率100%を目指し、24時間365日体制で救急医療の提供を行った。 ・人工透析については、令和2年1月から県立医大とICT機器で結び、透析専門医から遠隔により指導・助言を受けながら医療の提供を行った。 ・人材の育成については、16名（令和5年度比2名増）の研修医の受入などを積極的に行うことで、地域医療への理解促進や将来的な医師の確保を図った。 ・訪問診療や訪問看護などの在宅支援に取り組んだほか、令和6年4月からは地域包括ケア病床を新たに設けて、患者の在宅復帰に向けた治療・看護や長期的なリハビリテーションを提供するなど、南会津地域における包括ケアシステムの構築を支援した。 <p>【宮下病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥会津地域唯一の救急協力病院として、24時間365日体制で一次救急を担った。 ・人材の育成については、10名（令和5年度比3名増）の研修医の受入などを積極的に行うことで、地域医療への理解促進や将来的な医師の確保を図った。 ・在宅医療については、病院機能と在宅医療の連携と効率をさらに高め、より一層地域の医療ニーズに応じていくため、令和7年3月に当院内に活動拠点を移転した。 また、令和6年7月より在宅時医学総合管理料の算定を開始することで、医療サービス向上及び収益向上を図った。 ・これまでの院外活動に加え、摂食嚥下障害看護認定看護師が高齢者施設における入所者の食事状況を把握し、介護職員や施設看護師への必要な助言や指導、日ごろのケア相談等を定期的実施した。 <p>【こころの杜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修医、看護学生実習を積極的に受け入れるとともに、医療観察法等の当院独自の機能を生かした医療関係者のキャリアアップ支援に取り組んだ。 ・人材の育成については、11名（令和5年度比1名増）の研修医の受入などを積極的に行うことで、地域医療への理解促進や将来的な医師の確保を図った。 ・退院患者の生活拠点となる関係機関との協議等により退院支援を行うとともに、認知症疾患医療センターとして認知症に関する相談対応、地域との協同による支援等に当たった。 ・新病院移転後4年目を迎え、新築時に整備された機能を継続的にサービス向上に繋げていくことができるよう、庭園植栽の管理、機械設備の点検等に取り組んだ。

<p>対応状況等</p>	<p>【ふたば医療センター附属病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双葉地域唯一の二次救急医療機関として、県立医科大学との連携を図って24時間365日体制で救急医療の提供を行った。 ・多目的医療用ヘリの運航による救急搬送時間の短縮や救急患者の移動中の負担軽減を図るとともに、令和7年6月から看護師の消防業務研修を双葉地方広域消防本部で行い、救急隊との連携強化による双葉地域の救急医療の向上を図った。 ・出前講座による地域住民の疾病予防や健康増進の支援を行うとともに、令和7年1月より配置された社会福祉士を含めた地域連携室が中心となり、専門的案件的速やかな対応や患者・家族の諸事情に配慮したきめ細やかな対応を行った。 ・中核的病院が開設されるまでの間、地域の医療ニーズに応えるため、県立医科大学からの応援医師の専門性を活かした一般外来を開設するなどの外来機能の拡充を計画している。
	<p>【ふたば復興診療所（リカーレ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双葉地域における精神科医療の核として、精神科医療を安定的に提供するとともに、関係機関と連携しながら、精神分野での地域支援体制の充実に努めた。 また、延べ48件の地域支援活動を実施し、地域住民等の心の健康づくりに貢献した。 【地域支援活動の例】 <ul style="list-style-type: none"> ○郡内町村、社会福祉協議会との連携 ○郡内町村役場の保健師への支援 ○住民向け講演会 ○住民支援団体との連携・支援 ・県立医科大学からの支援を受け、双葉地域に不足している内科・整形外科といった専門性の高い医療の提供を行った。 ・玄関の雨よけのために庇を設置するなど、患者サービス向上に向けた環境整備を図った。

県立病院事業経営強化プランの令和6年度の取組状況について

県立病院事業経営強化プランについて

- ◇ 県立病院としての機能・価値を高めるため
『地域に必要な医療の持続的な提供』『効率的な病院経営』を基本目標として、令和6年度から令和9年度までの4年間における病院経営の指針として策定したもの。
 - ◇ 「Ⅰ 各県立病院が果たすべき基本的役割」、「Ⅱ 医療の質の向上の取組」「Ⅲ 県立病院事業の経営効率化に向けた収支計画」を取組内容とし、その取組状況を毎年進行管理していく。
- <プランの経過>
- ① 県立病院改革プラン：平成21年度～平成25年度
 - ② 第2次県立病院改革プラン：平成26年度～平成28年度
 - ③ 新たな県立病院改革プラン：平成29年度～令和2年度
 - ④ ふくしま県立病院事業改革プラン：令和3年度～令和5年度
 - ⑤ 県立病院事業経営強化プラン：令和6年度～令和9年度

<経営評価委員会の主な役割>
プランの取組状況を点検・評価し、病院局及び各県立病院に対して意見・助言を行うこと。

県立病院事業経営強化プラン進行管理

I 県立病院の取組状況 P. 2

■ 各県立病院の基本的役割を果たすために必要となる主要な取組の実績



II 医療の質の向上の取組状況 P. 3～7

■ 各県立病院における医療の質の向上に向けて実施する病院機能評価等の結果

病院機能評価	各県立病院の組織全体の運営管理と提供する医療について「患者中心の医療」「良質な医療」「チーム医療」「組織運営」の各領域の項目（一般病院：89項目、精神病院：92項目）を外部審査等により評価 → 外部審査：5年に1回受審 中間検査：外部審査認定後3年目に受審 自主点検：上記審査等以外の年に実施
数値目標評価	病院機能評価の項目の中から各県立病院で設定した数値目標の評価 → 目標評価：目標値達成状況の自己評価（定量評価）

III 経営の効率化に向けた取組状況 P. 8

- 患者状況
- 決算状況
- 収支計画の目標「政策医療経費の繰入」「経常収支比率・修正医業収支比率」の状況

I 県立病院の取組状況

県立病院事業経営強化プラン

【基本目標】 『地域に必要な医療の持続的な提供』 『効率的な病院経営』

【基本的役割】

中山間地域における政策医療の提供

南会津病院(85床)

院長 吉田 典行



◆地域医療の安定的な提供

➢南会津地域唯一の救急告示病院として、『断らない救急』を目指し、24時間365日体制で救急医療を実施

	R4	R5	R6
救急車受入(回)	770	834	882
時間外患者(人)	1,556	2,099	1,746

◆公的診療所等への診療応援

➢只見町朝日診療所等への応援を実施

	R4	R5	R6
国保診療所(回)	22	0	31
特養老人ホーム(回)	63	62	59

※H30より、地域医療支援C(南会津広域町村組合)が行っていた訪問診療について継承

◆人材育成

➢臨床研修医や地域医療に関心を持つ医学生や看護学生等を受け入れ、地域医療への理解促進や将来的な医療人材を確保

	R4	R5	R6
初期臨床研修医(人)	17	14	16

◆在宅医療の提供

➢在宅医療を必要とする方へ訪問看護等を実施

	R4	R5	R6
訪問看護利用者(人)	2,522	2,620	2,372

◆健康づくりへの支援

➢健康診断や町村と連携した出前講座等を通して予防医療や健康づくりの啓発を実施
➢保育所等の職員及び保護者を対象に、家庭や施設で抱える子育ての不安や疑問に答える相談会を継続して実施

	R4	R5	R6
医療講演会(回)	※0	7	10
医療相談会(回・人)	※0・0	7・72	5・76

※対面による医療講演会及び医療相談会は新型コロナウイルス5類移行後に再開

宮下病院(22床)

院長 横山 秀二



◆地域医療の安定的な確保

➢救急協力病院として、必要な医療機能や病床を確保するとともに、地域の医療機関等と連携して救急医療・時間外医療等を実施
➢診療科の維持及び充実の確保

	R4	R5	R6
救急車受入(件)	103	76	96
時間外患者(人)	319	323	342

◆公的診療所等への診療応援

➢金山町国保診療所等への応援を実施

	R4	R5	R6
国保診療所(回)	164	164	205
特養老人ホーム(回)	64	83	80

◆人材育成

➢臨床研修医や地域医療に関心を持つ医学生や看護学生等を受け入れ、地域医療への理解促進や将来的な医療人材確保に協力

	R4	R5	R6
初期臨床研修医(人)	8	7	10
地域医療実習(人)	2	23	33

◆訪問診療・訪問看護等の充実

➢住民が安心して在宅療養ができる訪問診療・訪問看護を実施し、平成30年11月から更に、介護保険に係る訪問看護を開始
➢出前講座等による住民の健康増進の支援
➢令和2年7月から、訪問医療チーム(奥会津在宅医療センター)による訪問診療、訪問看護を実施

	R4	R5	R6
訪問診療(件)	1,405	1,557	2,104
内 奥会津C(件)	1,405	1,557	2,104
訪問看護(件)	2,093	1,713	1,308
内 奥会津C(件)	2,093	1,713	1,308
出前講座(回・人)	11・127	14・171	17・198
院内健康教室(回・人)	※0・0	3・11	12・112

※対面による院内健康教室は新型コロナウイルス5類移行後に再開

先進的な精神科医療の提供

ふくしま医療センター こころの杜(148床)

院長 橋高 一



◆明るく開放的で快適な病院への建替

➢先進的な精神科医療を担う「ふくしま医療センターこころの杜」として全面建替工事を実施【診療開始R4.10、工事完了R6.2】

◆措置入院等

➢自分や他人を傷つける危険が高いと診断された者や処遇困難患者の入院を受け入れ、地域で生活できるよう関係機関と連携した退院後の支援を実施

	R4	R5	R6
措置入院(人)	10	5	6

◆児童思春期医療の充実強化

➢相談直後から医療スタッフ等による支援を開始する「ふくしまモデル」により、取組を充実強化

	R4	R5	R6
児童思春期外来(人)	6,553	7,176	7,387

◆訪問看護・デイケアの充実

アウトリーチ(多職種による訪問支援)の実施
➢医療相談室や訪問看護ステーションを中心に患者の地域移行・地域定着支援を実施
➢未治療者やひきこもりの障がい者へのアウトリーチによる早期発見・治療の促進

	R4	R5	R6
訪問看護(人/日)	14.6	16.0	15.6
デイケア(人/日)	10.4	14.5	12.4
アウトリーチ(件)	39	35	131

◆救急・急性期医療の充実

➢精神科救急医療システム指定医療機関として救急輪番に対応する一方、精神科の夜間・休日の常時救急体制を整備し、質の高い医療チームで急性期患者に対応

	R4	R5	R6
休日・時間外診察患者数(人)	15	10	15
休日・時間外入院患者数(人)	21	18	14

復興を支える医療提供体制の確保

ふたば医療センター

附属病院【ふたば】(30床)

センター長(兼)
院長 谷川 攻一



◆地域医療の確保

➢双葉地域唯一の二次救急医療機関として、平成30年4月23日診療開始
➢同地域の救急医療の更なる強化に向け、同年10月29日多目的医療用ヘリの運航を開始
令和6年度ヘリ運航件数50件(R5:75件)

※救急搬送の状況(双葉消防本部管内)

	搬送人数(a)	うち管内搬送(b)	うちふたば搬送	管内搬送率(b/a)
R6	1,275	832	793	65.3
R5	1,284	840	802	65.4
R4	1,185	741	695	62.5

◆提供する医療機能

➢診療科：救急科・内科
➢救急医療(24時間365日対応)
➢訪問看護(平成30年7月開始)

	R4	R5	R6
入院(人)	2,710	3,317	3,923
外来(人)	5,172	5,519	5,591
うち訪問看護(人)	254	68	0

ふたば復興診療所【リカーレ】

所長 宮川 明美



◆地域医療の確保

➢県立福島医大のバックアップにより、大学病院と同等の高度な診療を提供する「かかりつけ医」として附属病院と役割分担し、外来診療を実施

◆患者数の動向

➢R5年度に心身医療科を新設
➢地域別では、楡葉町と広野町で全体の8割弱
➢年齢別では、全体の7割強が60歳以上

	R4	R5	R6
内科(人)	3,877	3,824	4,004
整形外科(人)	1,097	905	943
心身医療科(人)	-	423	748

II 医療の質の向上の取組状況

南会津病院

1 病院機能評価を活用した点検状況

点検方法	自主点検
実施時期	令和7年3月
評価結果概要	【S評価：0項目、A評価：84項目、B評価：3項目、C評価：0項目】 評価項目全87項目中、A評価としたものが84項目、B評価としたものが3項目となり、前年度と同程度の結果となった。
改善結果	【S評価：0項目、A評価：84項目、B評価：3項目、C評価：0項目】 ■ 各部署において、B評価となった事項の状況を確認した。 ■ B評価の項目：「1-1-6 臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる」 「1-5-2 診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる」 「1-5-4 倫理・安全面などに配慮しながら新たな診療・治療方法や技術を導入している」

2 数値目標の達成状況（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

評価項目	令和6年度				令和5年度		
	目標値	実績値	評価	主な取組状況	目標値	実績値	評価
入院患者満足度	94.2%	95.6%	5	患者アンケートを踏まえた改善に努めた	75.0%	97.4%	5
外来患者満足度	95.7%	91.5%	4	患者アンケートを踏まえた改善に努めた	80.0%	97.0%	5
紹介率	19.2%	25.7%	5	関係機関との連携強化に努めた	20.0%	26.0%	5
逆紹介率	13.0%	23.5%	5	関係機関との連携強化に努めた	20.0%	19.4%	4
診療圏内救急貢献率	48.0%	55.3%	5	管内消防期間との連携強化に努めた	45.5%	54.5%	5
在宅復帰率	91.0%	92.0%	5	関係機関との連携協化に努めた	90.2%	94.3%	5
訪問看護実施件数	2,400件	2,372件	4	訪問看護ステーションを設置し対応した			
病床利用率	35.0%	43.8%	5	地域包括ケア病床の運用を開始した (令和6年8月)	55.6%	33.7%	2
常勤医師数	10人	10人	5	病院局本局と連携し人材確保に努めた	8人	10人	5
資格取得者支援数	2人	1	2	資格取得のための支援を行った	3人	1人	3
医療安全研修参加率	100.0%	100.0%	5	複数回の実施により参加しやすい環境を整えた	100.0%	100.0%	5
後発医薬品利用率	75.0%	82.8%	5	薬事委員会で検討し利用率向上に努めた	75.0%	83.6%	5
経常収支比率	100.2%	100.1%	4		100.1%	99.6%	3
修正医業収支比率	54.9%	42.3%	3	地域包括ケア病床の稼働など収益の確保に努めた	53.0%	47.0%	3

※前年度実績値比：増加→緑色、減少→赤色

○数値目標の評価基準（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）	R6	R5
【5】 目標値を上回った。達成度100%以上	9	9
【4】 目標値を達成できた。達成度90%以上	3	1
【3】 目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	1	4
【2】 目標値を下回った。達成度50%以上	1	1
【1】 目標値を大きく下回った。達成度50%未満	0	1

○病院機能評価の評価基準

S	秀でている
A	適切に行われている
B	一定の水準に達している
C	一定の水準に達しているとはいえない

※評価項目数異なるためR5は参考値

南会津病院経営分析

県立南会津病院				
事業開始年月	S24.7			
年度	R6実績	R5実績	R6-R5	
1 施設等の概要				
病床数 [床]	85	98	▲13	
100床当たり医師数 [人]	13	12	1	
医師数 [人]	10	10	0	
100床当たり看護職員数 [人]	124	99	25	R5実績修正
看護職員数 [人]	105	84	21	R5実績修正
2 病院概要				
診療圏の人口 [人]	21,147	21,779	▲632	
診療科	内科/外科/整形外科/小児科/麻酔科/耳鼻いんこう科/眼科/婦人科/皮膚科/神経精神科/神経内科/泌尿器科/漢方内科	内科/外科/整形外科/小児科/麻酔科/耳鼻いんこう科/眼科/婦人科/皮膚科/神経精神科/神経内科/泌尿器科/漢方内科		
3 損益の状況				
病院事業収益 [千円]	2,442,167	2,312,612	129,555	収益増減理由
医業収益 [千円]	1,138,483	1,081,605	56,878	○入院収益 +43,599千円
(うち一般会計繰入金)	111,819	46,514	65,305	・地域包括ケア病床稼働による患者増等。
入院収益 [千円]	456,706	413,107	43,599	○外来収益 ▲47,611千円
外来収益 [千円]	532,219	579,830	▲47,611	・内科・小児科の患者数減等。
その他医業収益 [千円]	149,558	88,668	60,890	○その他医業収益 +60,890千円
医業外収益 [千円]	1,302,843	1,209,378	93,465	・退職手当に関する補助金の増等。
(うち一般会計繰入金)	1,074,975	828,599	246,376	○医業外収益 +93,465千円
特別利益 [千円]	841	21,629	▲20,788	・長期前受金戻入の増等。
病院事業費用 [千円]	2,442,167	2,312,611	129,556	費用増減理由
医業費用 [千円]	2,429,321	2,279,283	150,038	○給与費 +84,187千円
給与費 [千円]	1,342,548	1,258,361	84,187	・給与と規定に伴う人件費の増等。
材料費 [千円]	232,961	250,467	▲17,506	○材料費 ▲17,506千円
経費 [千円]	587,515	549,428	38,087	・手術件数減少による高額材料の使用量減。
減価償却費 [千円]	222,925	169,466	53,459	○経費 +38,087千円
資産減耗費 [千円]	4,403	15,648	▲11,245	・施設老朽化による修繕費の増、物価高騰による委託料の増等。
研究研修費 [千円]	38,969	35,913	3,056	○減価償却費 +53,459千円
医業外費用 [千円]	8,813	19,386	▲10,573	・前年度更新資産（電子カルテ）の償却開始による増。
(うち企業債利息)	8,813	19,386	▲10,573	○医業外費用 ▲10,573千円
特別損失 [千円]	4,033	13,942	▲9,909	・企業債償還利子の減。
医業収支〔収益-費用〕 [千円]	▲1,290,838	▲1,197,678	▲93,160	
純損益 [千円]	0	1	▲1	
収支差補填額 (全額一般会計繰入金) [千円]	812,403	565,206	247,197	一般会計繰入金説明 政策医療に係る経費の収支差補填
4 経営分析				
病床利用率 [%]	43.8	33.7	10.1	
平均在院日数 [日]	16.80	14.2	2.6	
入院患者数 [人]	13,583	12,043	1,540	
1日平均入院患者 [人]	37.2	32.9	4.3	
入院診療単価 [円]	33,691	34,361	▲670	
外来患者数 [人]	48,926	53,176	▲4,250	
1日平均外来患者 [人]	201.3	218.8	▲17.5	
外来診療単価 [円]	10,894	10,924	▲30	
外来/入院比率 [%]	360.2	441.6	▲4.3	

II 医療の質の向上の取組状況

宮下病院

1 病院機能評価を活用した点検状況

点検方法	自主点検
実施時期	2024年4月～2025年2月
評価結果概要	【S評価：0項目、A評価：83項目、B評価：2項目、C評価：0項目】 評価項目全85項目中、A評価としたものが83項目、B評価としたものが2項目となり、前年度と同様の結果となった。
改善結果	【S評価：0項目、A評価：83項目、B評価：2項目、C評価：0項目】 自己点検結果B評価とした2項目 【No.1.2.1】「必要な情報を地域等へわかりやすく発信しているか」 ・令和3年度に実施した外部審査において、『「臨床指標」や有用な診療実績について情報発信することが望ましい』と評価されているが、当院は電子カルテ未導入のため、臨床指標等の診療情報を公表するには各種データを手作業で集計する必要があり多大な労力を要するため、電子カルテ導入後に検討していく。 【No.4.2.1】「役割・機能に合った人材を確保しているか」 ・当院の医師は、福島県出身の自治医科大学及び県立医科大学出身の医師中心の構成となっており、学年毎の内科医の数に左右されることがあり、へき地医療拠点病院として地域の診療所等への円滑な支援を行うため、医師配置数の増員を積極的に検討していく。

2 数値目標の達成状況（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

評価項目	令和6年度				令和5年度		
	目標値	実績値	評価	主な取組状況	目標値	実績値	評価
入院患者満足度	93.5%	88.6%	4	入院患者の食事について、要望を聞き可能であれば提供している。	93.0%	87.7%	4
外来患者満足度	81.5%	82.0%	5	外来待合室で月1回の健康教室を実施するほか、来院患者に健康教室の資料を配付するなど、待ち時間の緩和を図っている。	81.0%	68.9%	3
紹介率	28.0%	32.6%	5	会津管内の病院を中心に25の医療機関から紹介を受け、紹介元へ郵送料を送付しているが、地域連携室専任の職員を配置していないため、全てには対応できていないのが現状である。	22.0%	29.7%	5
逆紹介率	46.0%	40.4%	3	医師が他機関へ診療応援を行い、患者の診療をするなど他機関との綿密な連携を図っている。	33.5%	42.1%	5
診療圏内救急貢献率	18.0%	16.3%	4	救急搬送連絡の際に、患者にとって最適な診療ができるよう判断し、その情報を消防署と共有している。	14.4%	13.5%	4
在宅復帰率	56.0%	85.7%	5	退院先について課題がある場合に、多職種による退院調整会議を行い、各専門知識を持ち寄り最善の策を協議している。	89.0%	88.5%	4
訪問看護実施件数	2,093件	1,308件	2	在宅医療事業については、令和6年4月より会津医療センターから当院へ事業移管したほか、病院機能との連携と効率をさらに高めるため、令和7年3月に運動拠点を当院内に移転した。			
病床利用率	18.0%	21.5%	5	患者数の増加により病床利用率が向上しているが、令和7年3月より奥会津在宅医療センターが院内に移設し病床数が減少したことにより、今後さらなる向上が期待される。	31.7%	13.6%	1
常勤医師数	5人	6人	5	病院局本局と連携し、医師の確保に努めた。	4人	6人	5
資格取得者支援数	1人	1人	5	認定看護師教育課程（感染管理）令和7年7月修了予定	4人	1人	1
医療安全研修参加率	100.0%	100.0%	5	全職員（委託職員含む）対象として年2回実施。未受講の職員にはレポートの提出を課している。	100.0%	100.0%	5
後発医薬品使用率	97.5%	98.2%	5	薬事委員会で先発品から後発品への切替を諮り、後発品を使用することとしている。	95.0%	98.4%	5
経常収支比率	100.1%	100.0%	4		45.8%	99.7%	5
修正医業収支比率	29.6%	25.6%	3	入院患者数の増加や在宅医学総合管理科の加算により、医業収支の増加を図った。	32.1%	26.3%	3

※前年度実績値比：増加→緑色、減少→赤色

○数値目標の評価基準（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）	R6	R5
【5】 目標値を上回った。達成度100%以上	8	9
【4】 目標値を達成できた。達成度90%以上	3	3
【3】 目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	2	2
【2】 目標値を下回った。達成度50%以上	1	0
【1】 目標値を大きく下回った。達成度50%未満	0	2

※評価項目数異なるためR5は参考値

○病院機能評価の評価基準

S	秀でている
A	適切に行われている
B	一定の水準に達している
C	一定の水準に達しているとはいえない

宮下病院経営分析

県立宮下病院				
事業開始年月	S26.11			
年度	R6実績	R5実績	R6-R5	
1 施設等の概要				
病床数 [床]	22	32	▲10	
100床当たり医師数 [人]	24.0	20.6	3.4	
医師数 [人]	6	6	0	
100床当たり看護職員数 [人]	100.3	93.1	7.2	
看護職員数 [人]	32	31	1	
2 病院概要				
診療圏の人口 [人]	6,639	6,858	▲219	
診療科	内科/外科/整形外科/皮膚科/耳鼻いんこう科/精神科	内科/外科/整形外科/皮膚科/耳鼻いんこう科/精神科		
3 損益の状況				
病院事業収益 [千円]	905,589	740,233	165,356	
医業収益 [千円]	250,824	194,062	56,762	
（うち一般会計繰入金）	19,380	1,132	18,248	
入院収益 [千円]	68,343	44,106	24,237	
外来収益 [千円]	138,016	123,338	14,678	
その他医業収益 [千円]	44,465	26,618	17,847	
医業外収益 [千円]	654,324	542,318	112,006	
（うち一般会計繰入金）	622,575	506,250	116,325	
特別利益 [千円]	441	3,853	▲3,412	
病院事業費用 [千円]	905,589	740,233	165,356	
医業費用 [千円]	903,718	737,473	166,245	
給与費 [千円]	528,545	448,430	80,115	
材料費 [千円]	42,626	34,386	8,240	
経費 [千円]	277,459	198,877	78,582	
減価償却費 [千円]	31,556	34,610	▲3,054	
資産減耗費 [千円]	2,840	1,901	939	
研究研修費 [千円]	20,692	19,269	1,423	
医業外費用 [千円]	1,285	1,030	255	
（うち企業債利息）	1,285	1,030	255	
特別損失 [千円]	586	1,730	▲1,144	
医業収支〔収益-費用〕 [千円]	▲652,894	▲543,411	▲109,483	
純損益 [千円]	0	0	0	
収支差補填額（全額一般会計繰入金） [千円]	479,697	462,898	16,799	
4 経営分析				
病床利用率 [%]	21.5	13.6	7.9	
平均在院日数 [日]	13.7	11.6	2.1	
入院患者数 [人]	2,447	1,587	860	
1日平均入院患者 [人]	6.7	4.3	2.4	
入院診療単価 [円]	27,966	27,814	152	
外来患者数 [人]	14,735	16,764	▲2,029	
1日平均外来患者 [人]	60.6	69.0	▲8.4	
外来診療単価 [円]	9,373	7,361	2,012	
外来/入院比率 [%]	602.2	1056.3	▲454.2	

収益増減理由
●入院収益 24,217千円増（患者数860人増）
●外来収益 13,663千円増（患者数2,029人減、在総管加算等による診療単価2,012円の増）
●退職手当対応経費 18,248千円の増
●一般会計負担金 113,622千円増（不採算地区病院運営費 17,260千円増）
（へき地医療運営費 89,536千円増）

費用増減理由
●給与費 79,094千円増
職員3名増（医師1、看護師1、事務部会計年度任用職員1）、退職手当の増、給与改定に伴う差額支給の増額
●材料費 4,806千円増
コロナワクチン購入費の費用化、コロナ治療薬の消費増
●経費 61,078千円増
・奥会津在宅医療センター事業運営に係る費用増（賃借料6,544千円、委託料43,132千円）
・給食業務委託等の増（14,371千円増）

一般会計繰入金説明
政策医療に係る経費の収支差補填

II 医療の質の向上の取組状況

ふくしま医療センターこころの杜

1 病院機能評価を活用した点検状況

点検方法	外部審査
実施時期	令和6年12月
評価結果概要	【S評価：1項目、A評価：76項目、B評価：7項目、C評価：3項目】 「C」（一定の水準に達しているとは言えない）：3項目「2.1.2 診療記録を適切に記載している」「3.1.6 診療情報管理機能を適切に発揮している」「4.2.3 職員の安全衛生管理を適切に行っている」
改善結果	【S評価：1項目、A評価：76項目、B評価：7項目、C評価：3項目】 「C」評価であった3項目について補足的な審査（書面審査）受審したところ、「条件付認定（6か月）」とされた。

2 数値目標の達成状況（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

評価項目	令和6年度			令和5年度			
	目標値	実績値	評価	主な取組状況	目標値	実績値	評価
入院患者満足度	50.0%	53.9%	5	患者様の声チームの開催（意見投書箱の設置）	60.0%	44.8%	3
外来患者満足度	80.0%	76.3%	4	患者様の声チームの開催（意見投書箱の設置）	80.0%	62.1%	4
紹介率	40.0%	46.7%	5	総合相談・地域連携室で専任3名体制	60.0%	31.9%	2
逆紹介率	55.0%	65.8%	5	総合相談・地域連携室で専任3名体制	30.0%	49.6%	5
在宅復帰率	80.0%	87.4%	5	総合相談・地域連携室PSWによる退院支援	93%	70.0%	3
訪問看護実施件数	3,500件	3,788件	5	ケア会議等での処遇調整など			
措置入院件数	2件	6件	5	関係機関との連絡調整	5件	5件	5
病床利用率	55.0%	49.7%	4	地域移行促進	76.2%	58.4%	2
常勤医師数	12人	10人	3	病院ホームページでの募集	12人	10人	3
資格取得者支援数	1人	1人	5	看護師ファーストレベル研修	1人	1人	5
医療安全研修参加率	100.0%	97.0%	4	eラーニングによる実施（ミニテスト回収）	100.0%	95.9%	4
後発医薬品利用率	65.0%	83.5%	5	薬事委員会による管理	80.0%	71.0%	3
経常収支比率	100.0%	99.7%	4		100.0%	100.0%	5
修正医業収支比率	48.1%	34.0%	3	費用縮減に努めた	53.5%	34.7%	3

※前年度実績値比：増加→緑色、減少→赤色

○数値目標の評価基準（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）	R6	R5
【5】 目標値を上回った。達成度100%以上	8	4
【4】 目標値を達成できた。達成度90%以上	4	2
【3】 目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	2	5
【2】 目標値を下回った。達成度50%以上	0	2
【1】 目標値を大きく下回った。達成度50%未満	0	0

※評価項目数異なるためR5は参考値

○病院機能評価の評価基準

S	秀でている
A	適切に行われている
B	一定の水準に達している
C	一定の水準に達しているとはいえない

ふくしま医療センターこころの杜経営分析

ふくしま医療センターこころの杜			
事業開始年月	S30.11		
年度	R6実績	R5実績	R6-R5
1 施設等の概要			
病床数 [床]	148	148	0
100床当たり医師数 [人]	8.0	6.9	1.1
医師数 [人]	9	9	0
100床当たり看護職員数 [人]	84.0	76.5	7.5
看護職員数 [人]	115	113	2
2 病院概要			
診療圏の人口 [人]	254,245	257,515	▲ 3,270
診療科	精神科/内科/歯科	精神科/内科/歯科	
3 損益の状況			
病院事業収益 [千円]	2,707,959	2,930,670	▲ 222,711
医業収益 [千円]	1,091,349	999,840	91,509
（うち一般会計繰入金）	178,357	31,727	146,630
入院収益 [千円]	639,405	684,238	▲ 44,833
外来収益 [千円]	238,930	252,893	▲ 13,963
その他医業収益 [千円]	213,014	62,709	150,305
医業外収益 [千円]	1,613,791	1,925,830	▲ 312,039
（うち一般会計繰入金）	1,240,773	1,447,179	▲ 206,406
特別利益 [千円]	2,819	5,000	▲ 2,181
病院事業費用 [千円]	2,718,357	2,931,386	▲ 213,029
医業費用 [千円]	2,683,512	2,911,280	▲ 227,768
給与費 [千円]	1,747,876	1,481,201	266,675
材料費 [千円]	81,960	89,638	▲ 7,678
経費 [千円]	449,553	431,745	17,808
減価償却費 [千円]	365,143	329,591	35,552
資産減耗費 [千円]	1,005	538,498	▲ 537,493
研究研修費 [千円]	37,975	40,607	▲ 2,632
医業外費用 [千円]	29,891	17,800	12,091
（うち企業債利息）	29,891	17,800	12,091
特別損失 [千円]	4,954	2,306	2,648
医業収支〔収益-費用〕 [千円]	▲ 1,592,163	▲ 1,911,440	319,277
純損益 [千円]	▲ 10,398	▲ 716	▲ 9,682
収支差補填額 [千円]	943,140	801,266	141,874
（全額一般会計繰入金）			
4 経営分析			
病床利用率 [%]	49.7	58.4	▲ 8.7
平均在院日数 [日]	109.5	111.4	▲ 1.9
入院患者数 [人]	26,826	29,401	▲ 2,575
1日平均入院患者 [人]	73.5	80.3	▲ 6.8
入院診療単価 [円]	23,835	23,273	562
外来患者数 [人]	26,704	27,133	▲ 429
1日平均外来患者 [人]	109.9	111.7	▲ 1.8
外来診療単価 [円]	8,947	8,977	▲ 30
外来/入院比率 [%]	99.5	92.3	7.3

収益増減理由
○入院・外来収益 ・常勤医師の年度中途退職に伴う新規患者受入制限から減となった。
○その他医業収益 ・退職手当に対する一般会計補助金の増等。
○医業外収益 ・前年度旧庁舎の資産減耗費に対する一般会計補助金の減等。
費用増減理由
○給与費 ・給与改定に伴う人件費の増等。
○経費 ・業務範囲の拡大に伴う委託料の増や電気料の高騰に伴う光熱水費の増等。
○減価償却費 ・令和5年度の新庁舎（外構等）資産計上による償却額の増等。
○医業外費用 ・令和5年度新庁舎（外構等）の財源とした企業債の償還利子増等。
一般会計繰入金説明
政策医療に係る経費の収支差補填

II 医療の質の向上の取組状況

ふたば医療センター附属病院

1 病院機能評価を活用した点検状況

点検方法	中間検査
実施時期	点検結果：令和6年8月 改善結果：令和7年1月
評価結果概要	【S評価：0項目、A評価：83項目、B評価：3項目、C評価：0項目】 <ul style="list-style-type: none"> ■ 各部署において、病院機能評価項目に基づいて自己点検を行った。 ■ 改善結果について、院内の「質改善委員会」において確認し、日本医療機能評価機構へ提出した。
改善結果	【S評価：0項目、A評価：83項目、B評価：3項目、C評価：0項目】 <ul style="list-style-type: none"> ■ 各部署において、B評価となった事項の記載内容の確認、自己評価結果における課題28項目について状況を再確認した。 ■ B評価の項目：「4-2-1 役割・機能に見合った人材を確保している」、「4-2-2 人事・労務管理を適切に行っている」、「4-3-3 専門職種に応じた初期研修を行っている」

2 数値目標の達成状況（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

評価項目	令和6年度				令和5年度		
	目標値	実績値	評価	主な取組状況	目標値	実績値	評価
入院患者満足度	100.0%	76.7%	3	全室個室	100.0%	87.0%	3
外来患者満足度	100.0%	61.3%	2	意見箱設置	100.0%	78.3%	3
郡内救急貢献率	62.5%	64.9%	5	24時間365日対応で救急患者受入	56.0%	65.7%	5
救急応需率	90.0%	95.3%	5	消防機関等との連携強化	-	-	-
常勤医師数	3人	3人	5	本局対応	2人	3人	5
資格取得者支援数	2人	2人	5	感染管理認定看護師、第2種滅菌技師	2人	2人	5
医療安全研修参加率	100.0%	100.0%	5	全職員対象として年2回実施	100.0%	100.0%	5
後発医薬品利用率	92.0%	96.9%	5	先発医薬品から後発医薬品への切り替え	92.0%	95.7%	5
経常収支比率	100.2%	100.0%	4		100.0%	100.0%	4
修正医業収支比率	13.7%	15.9%	5	医業収益の確保、費用の削減に努めた	12.6%	17.3%	5

※前年度実績値比：増加→緑色、減少→赤色

○数値目標の評価基準（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）	R6	R5
【5】 目標値を上回った。達成度100%以上	7	10
【4】 目標値を達成できた。達成度90%以上	1	1
【3】 目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	1	4
【2】 目標値を下回った。達成度50%以上	1	1
【1】 目標値を大きく下回った。達成度50%未満	0	0

※評価項目数異なるためR5は参考値

○病院機能評価の評価基準

S	秀でている
A	適切に行われている
B	一定の水準に達している
C	一定の水準に達しているとはいえない

県ふたば医療センター附属病院経営分析

県ふたば医療センター附属病院			
事業開始年月	H30.4		
年度	R6実績	R5実績	R6-R5
1 施設等の概要			
病床数 [床]	30	30	0
100床当たり医師数 [人]	20.0	20.0	0
医師数 [人]	3	3	0
100床当たり看護職員数 [人]	127.0	120.0	7
看護職員数 [人]	38	36	2
2 病院概要			
診療圏の人口 [人]	17,390	16,641	749
診療科	内科、救急科	内科、救急科	
3 損益の状況			
病院事業収益 [千円]	1,323,351	1,275,714	47,637
医業収益 [千円]	210,496	220,112	▲9,616
（うち一般会計繰入金） [千円]	0	0	0
入院収益 [千円]	128,632	129,577	▲945
外来収益 [千円]	72,821	81,069	▲8,248
その他医業収益 [千円]	9,043	9,466	▲423
医業外収益 [千円]	1,111,779	1,042,951	68,828
（うち一般会計繰入金） [千円]	(62,264)	(60,424)	(1,840)
特別利益 [千円]	1,076	12,651	▲11,575
病院事業費用 [千円]	1,323,354	1,275,714	47,640
医業費用 [千円]	1,319,968	1,271,140	48,828
給与費 [千円]	524,171	491,097	33,074
材料費 [千円]	66,156	69,870	▲3,714
経費 [千円]	592,469	516,969	75,500
減価償却費 [千円]	111,692	177,222	▲65,530
資産減耗費 [千円]	9,158	585	8,573
研究研修費 [千円]	16,322	15,397	925
医業外費用 [千円]	3	5	▲2
（うち企業債利息） [千円]	(3)	(5)	(▲2)
特別損失 [千円]	3,383	4,569	▲1,186
医業収支 [収益-費用] [千円]	▲1,109,472	▲1,051,028	▲58,444
純損益 [千円]	▲3	0	▲3
収支差補填額 [千円]	918,424	758,850	159,574
（全額一般会計繰入金） [千円]			
4 経営分析			
病床利用率 [%]	35.8	30.2	5.6
平均在院日数 [日]	9.5	8.2	1.3
入院患者数 [人]	3,923	3,317	606
1日平均入院患者 [人]	10.7	9.1	1.6
入院診療単価 [円]	32,789	39,065	▲6,276
外来患者数 [人]	5,591	5,519	72
1日平均外来患者 [人]	15.3	15.1	0.2
外来診療単価 [円]	13,025	14,689	▲1,664
外来/入院比率 [%]	142.5	166.4	▲23.9

収益増減理由
○入院収益 -945千円 ・平均在院日数の増加に伴う診療単価の減少
○外来収益 -8,248千円 ・診療コロナ公費負担の終了等に伴う減少
○医業外収益 +68,828千円 ・国庫補助金の増加
○特別利益 -11,575千円 ・新型コロナ関係補助金等の減少

費用増減理由
○給与費 +33,074千円 ・給与改定に伴う昇給及び人員の増加
○経費 +75,500千円 ・物価高騰の影響や委託料の増加
○減価償却費 -65,530千円 ・器械備品の法定耐用年数終了に伴う減少
○資産減耗費 +8,573千円 ・電子カルテ更新に伴う除却費の増加
○特別損失 -1,186千円 ・レセプトの査定等に伴う過年度損益修正損の減少

一般会計繰入金説明
政策医療に係る経費の収支差補填

※ 増減の理由の記載については次のとおりとした。
 【収益】 入院収益・外来収益は全病院・診療所で記載。他の項目は、前年度と比較して20%以上の増減がある、又は増減額が1千万円以上のものを記載。
 【費用】 前年度と比較して20%以上の増減がある、又は増減額が1千万円以上のものを記載。

II 医療の質の向上の取組状況

ふたば復興診療所

1 病院機能評価を活用した点検状況

点検方法	自主点検
実施時期	点検結果：令和6年6月 改善結果：令和7年3月
評価結果概要	【S評価：1項目、A評価：38項目、B評価：27項目、C評価：0項目】 ■ 無床診療所のため、病院機能評価項目のうち評価可能な項目（89項目）について自主点検を実施した。
改善結果	【S評価：1項目、A評価：39項目、B評価：26項目、C評価：0項目】 ■ 診玄関前に雨よけのための庇を追加設置、心身医療科の待合へのテレビ設置により、「療養環境の整備と利便性」の1項目の評価が改善。

2 数値目標の達成状況（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

評価項目	令和6年度				令和5年度		
	目標値	実績値	評価	主な取組状況	目標値	実績値	評価
外来患者満足度	100.0%	75.8%	3	飲料水の提供、雑誌・新聞の配置 生活習慣病の方への情報誌配付	92.0%	78.9%	3
紹介率	18.0%	16.7%	4	地域の医療機関との連携	17.0%	16.8%	4
逆紹介率	31.5%	11.1%	1	地域の医療機関との連携	13.0%	12.8%	4
常勤医師数	2人	1人	2	本局採用	-	-	-
資格取得者支援数	1人	1人	5	糖尿病看護認定看護師	-	-	-
医療安全研修参加率	100.0%	100.0%	5	院内研修の参加徹底	100.0%	100.0%	5
後発医薬品使用率	93.0%	94.3%	5	後発医薬品への切替推進	93.0%	88.5%	4
経常収支比率	100.0%	100.1%	5		100.1%	100.1%	5
修正医業収支比率	23.1%	22.8%	4	地域に不足する医療の提供	39.2%	22.7%	2

※前年度実績値比：増加→緑色、減少→赤色

○数値目標の評価基準（「令和5年度：県立病院改革プラン」、「令和6年度：県立病院経営強化プラン」）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）	R6	R5
【5】 目標値を上回った。達成度100%以上	4	2
【4】 目標値を達成できた。達成度90%以上	2	3
【3】 目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	1	1
【2】 目標値を下回った。達成度50%以上	1	2
【1】 目標値を大きく下回った。達成度50%未満	1	0

※評価項目数異なるためR5は参考値

○病院機能評価の評価基準

S	秀でている
A	適切に行われている
B	一定の水準に達している
C	一定の水準に達しているとはいえない

ふたば復興診療所経営分析

県ふたば医療センター附属ふたば復興診療所			
事業開始年月	H28.2		
年度	R6実績	R5実績	R6-R5
1 施設等の概要			
病床数 [床]	-	-	-
100床当たり医師数 [人]	-	-	-
医師数(非常勤) [人]	1(10)	1(9)	0(1)
100床当たり看護職員数 [人]	-	-	-
看護職員数 [人]	7	7	0
2 病院概要			
診療圏の人口 [人]	17,390	16,641	749
診療科	内科/整形外科/心身医療科	内科/整形外科/心身医療科	
3 損益の状況			
病院事業収益 [千円]	240,944	219,247	21,697
医業収益 [千円]	54,768	49,967	4,801
(うち一般会計繰入金) [千円]	0	0	0
入院収益 [千円]	-	-	-
外来収益 [千円]	50,854	46,356	4,498
その他医業収益 [千円]	3,914	3,611	303
医業外収益 [千円]	185,611	167,799	17,812
(うち一般会計繰入金) [千円]	6,110	5,934	176
特別利益 [千円]	565	1,481	▲916
病院事業費用 [千円]	240,945	219,247	21,698
医業費用 [千円]	240,034	218,710	21,324
給与費 [千円]	100,741	97,282	3,459
材料費 [千円]	16,750	12,164	4,586
経費 [千円]	103,630	91,244	12,386
減価償却費 [千円]	11,488	11,496	▲8
資産減耗費 [千円]	2,220	346	1,874
研究研修費 [千円]	5,205	6,178	▲973
医業外費用 [千円]	63	11	52
(うち企業債利息) [千円]	63	11	52
特別損失 [千円]	848	526	322
医業収支[収益-費用] [千円]	▲185,266	▲168,743	▲16,523
純損益 [千円]	▲1	0	▲1
収支差補填額(全額一般会計繰入金) [千円]	166,492	148,854	17,638
4 経営分析			
病床利用率 [%]	-	-	-
平均在院日数 [日]	-	-	-
入院患者数 [人]	-	-	-
1日平均入院患者 [人]	-	-	-
入院診療単価 [円]	-	-	-
外来患者数 [人]	5,695	5,152	543
1日平均外来患者 [人]	47.6	40.1	7.5
外来診療単価 [円]	8,930	8,998	▲68
外来/入院比率 [%]	-	-	-

収益増減理由
○外来収益の増 心身医療科の患者数の増 内科医師の増(1回・半日/週の増) 新型コロナ定期予防接種の実施等

費用増減理由
○給与費の増 給与改定に伴う昇給等
○材料費 新型コロナ定期予防接種実施に伴う増、 血糖自己測定器具導入患者の増等
○経費の増 情報セキュリティに関する業務の実施、 人材派遣の増による委託料の増等
○資産減耗費の増 医療情報システム及び公用車の更新等

一般会計繰入金説明
政策医療に係る経費の収支差補填

Ⅲ 経営の効率化に向けた取組状況

1 患者数の状況

(単位:人、%)

区分 病院名	延入院患者数				延外来患者数			
	R6年度	R5年度	増減	増減率	R6年度	R5年度	増減	増減率
こころの社	26,826	29,401	△ 2,575	△ 8.8	26,704	27,133	△ 429	△ 1.6
宮下	2,447	1,587	860	54.2	14,735	16,764	△ 2,029	△ 12.1
南会津	13,583	12,043	1,540	12.8	48,926	53,176	△ 4,250	△ 8.0
ふたば	3,923	3,317	606	18.3	5,591	5,519	72	1.3
リカーレ	-	-	-	-	5,695	5,152	543	10.5
合計	46,779	46,348	431	0.9	101,651	107,744	△ 6,093	△ 5.7

*延入院患者数増減の主な要因…(宮下)訪問看護から入院への移行に伴う増等、(南会津)地域包括ケア病床の稼働に伴う増等(ふたば)後期高齢者入院の増等、(こころ)新規患者の減及び平均在院日数の減による患者減等
*延外来患者数増減の主な要因…(ふたば)新規患者の増等、(リカーレ)心身医療科の患者増等(こころ)新規患者の減等、(宮下)ワクチン接種者の減等、(南会津)新規患者の減等

2 県立病院事業の決算額

(単位:百万円)

年度	R4	R5	R6
病院事業収益	7,792	8,274	9,468
病院事業費用	7,704	8,296	8,596
当年度純損益	88	▲ 22	872

損益の状況(消費税抜)

(単位:百万円、%)

区分	R6年度(A)	R5年度(B)	増減(A-B)	増減率
病院事業収益	9,468	8,274	1,194	14.4
医業収益	2,732	2,534	198	7.8
うち入院収益	1,293	1,271	22	1.7
うち外来収益	1,029	1,079	▲ 50	▲ 4.6
うちその他医業収益	410	184	226	122.8
医業外収益	5,923	5,694	229	4.0
一般会計負担金等	3,497	3,241	256	7.9
特別利益	813	46	767	1,667.4
病院事業費用	8,596	8,296	300	3.6
医業費用	8,373	8,107	266	3.3
医業外費用	159	161	▲ 2	▲ 1.2
特別損失	64	28	36	128.6
当年度純損益	872	▲ 22	894	4,063.6

3 収支計画の目標1:政策医療経費

一般会計繰入金のうち

「政策医療に係る経費」を、経営強化プランの目標値以下とする。

<政策医療に係る経費>

(単位:百万円)

年度	R5(参考)	R6	R7	R8	R9
目標額	-	1,892	1,882	1,868	1,863
決算額	1,829	2,238	-	-	-

【病院別の政策医療に係る経費(決算額)】

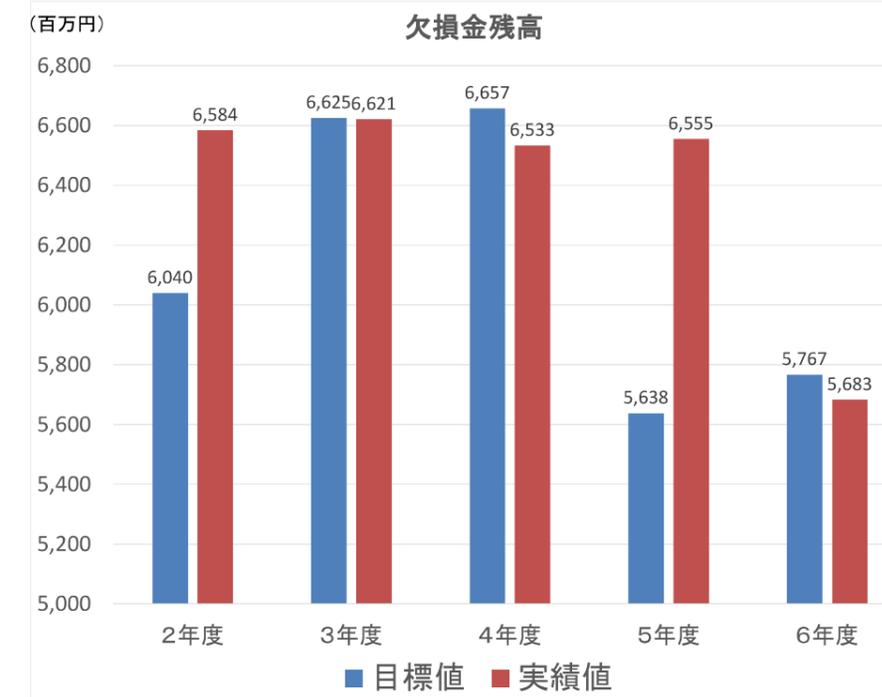
こころの社	801	943	-	-	-
宮下病院	463	480	-	-	-
南会津病院	565	815	-	-	-

※目標額は、「県立病院事業経営強化プラン」の目標値

病院別では、宮下病院は目標額を5百万円下回ったものの(目標額485百万円)、こころの社は目標額を131百万円(目標額812百万円)、南会津病院は目標額を220百万円(目標額595百万円)各々上回り、令和6年度においては目標値以下にすることができなかった。

4 収支計画の目標2:累積欠損金の処理状況

収益確保・費用削減に努めるとともに、様々な手段を講じ、削減に取り組む。



累積欠損金については、当年度は旧会津総合病院跡地を売却したことなどにより、前年度比で8億7,180万円減の56億8,270万円となり、目標値57億6,700万円以下になった。

引き続き、残る未利用財産の売却等に取り組み、累積欠損金の削減を図る。

県立病院事業経営強化プランの 一部改訂について

改訂対象：令和7～9年度

改訂年度：令和7年度

改訂の概要

■改訂要旨

- ・ **改訂理由**：現在のプランにおける収支計画は、令和4年度までの実績をベースに策定したものであり、新型コロナウイルス感染症の5類移行や令和6年度診療報酬改定の影響など経営環境の変化が反映されておらず、目標値が経営実態と乖離してしまっているため。
- ・ **改訂内容**：令和7年度～9年度の収支計画目標及び付随する数値目標を以下のとおり改訂する。
 - ＜収益＞ 令和6年度決算値や令和7年度中の実績をベースに、各病院における収益増加に向けた取組を踏まえ設定した。
 - ＜費用＞ 令和6年度決算値や令和7年度中の実績をベースに、給与改定に伴う人件費の増加や物価高騰による材料費、経費の増加などの影響を踏まえ設定した。
- ・ **改訂目標**：費用増に伴う収支差補填額の増加を、増収を図ることで抑制する。
 - ＜令和6→7年度＞
収益 69百万円増、費用 394百万円増、収支差補填額 325百万円増
 - ＜令和7→8年度＞
収益 135百万円増、費用 249百万円増、収支差補填額 114百万円増
 - ＜令和8→9年度＞
収益 131百万円増、費用 129百万円増、収支差補填額 2百万円減

■収支目標額（合計）

（単位：百万円）

項目	R 6 実績	R 6→7の 増減値	R 7	R 7→8の 増減値	R 8	R 8→9の 増減値	R 9
総収益	4,047	+69	4,116	+135	4,251	+131	4,382
(現行プラン)	(4,668)	(+31)	(4,699)	(+19)	(4,718)	(+18)	(4,736)
総費用	7,371	+394	7,765	+249	8,014	+129	8,143
(現行プラン)	(7,652)	(+28)	(7,680)	(+3)	(7,683)	(+11)	(7,694)
収支差補填額	3,324	+325	3,649	+114	3,763	▲2	3,761
(現行プラン)	(2,984)	(▲3)	(2,981)	(▲15)	(2,966)	(▲8)	(2,958)

※各項目上段の数値が改訂後の目標値、下段の（数値）が現行プランの目標値。

※本局及び休止中の大野病院除く。

各県立病院・診療所における収益増加に向けた取組み

○南会津病院

<収益・患者数の増加（R7→9年度）>

入院収益+30百万円・患者数+675人
外来収益+14百万円・患者数+370人

<取組>

令和6年4月に運用開始した地域包括ケア病床において、急性期治療後のリハビリ入院など在宅復帰支援に力を入れ、更なる効率的な病床運用により入院患者数増を目指す。

○宮下病院

<収益・患者数の増加（R7→9年度）>

入院収益+10百万円・患者数+250人
外来収益+6百万円・患者数+223人

<取組>

在宅医療の強化（オンライン診療導入）による外来患者増、在宅患者の適切な入院治療への切り替えによる入院患者増を目指す。

○こころの杜

<収益・患者数の増加（R7→9年度）>

入院収益+115百万円・患者数+4,548人
外来収益+32百万円・患者数+3,378人

<取組>

特徴的な取組（クロザピン治療、rTMS治療など）の周知や訪問活動の強化により、医療機関・介護機関からの紹介患者増を目指す。

○ふたば医療センター附属病院

<収益・患者数の増加（R7→9年度）>

入院収益+19百万円・患者数+383人
外来収益+24百万円・患者数+1,478人

<取組>

令和7年度中からの外来診療機能の拡充による外来患者増、高齢患者の増加による入院患者増を目指す。

○ふたば復興診療所

<収益・患者数の増加（R7→9年度）>

外来収益+2百万円・患者数+242人

<取組>

県立医大からの診療応援を受け、内科及び整形外科診療を行うとともに、双葉地域の精神医療の核として、引き続き地域支援活動に力を入れることで、安定的な外来患者数の確保を目指す。

宮下病院建替え基本設計 整備概要



●設計コンセプト

○奥会津地域の人々の安全・安心を支える

「ケアリング・コミュニティ※」の拠点

- ・訪問診療や訪問看護などの在宅医療の拠点機能
- ・地域住民への健康教室等を開催できる多目的ルームを設置

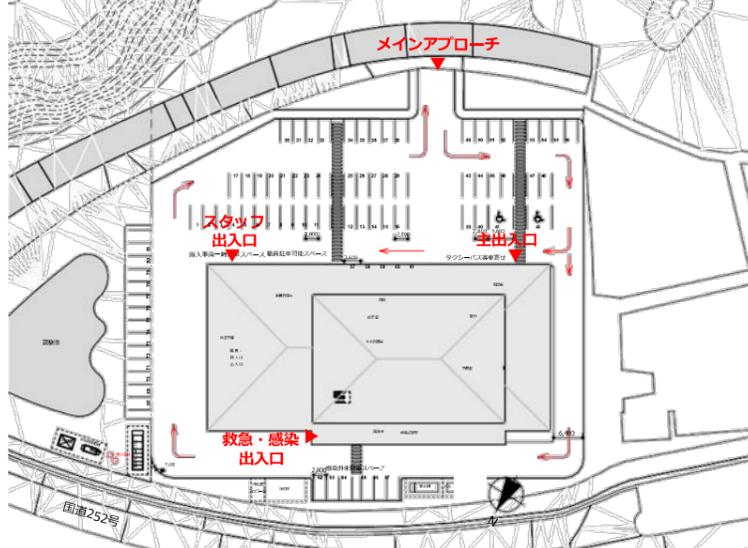
○患者や家族の不安を緩和し快適に過ごせる空間

- ・1床室（個室）の確保
- ・4床室では1床ごとに窓を設けプライバシーに配慮
- ・回遊廊下等の内装材等を木質化し温もりを創出

○木造化と県産材の活用

- ・RC造と木造の組み合わせによる木造化
- ・柱や梁などの主要な部材へ県産材を積極的に活用

※ケアリングコミュニティとは、福祉サービスを必要とする人を社会的に排除するのではなく、地域社会を構成する一人として包摂し、日常生活圏域の中で支えていく機能を有しているコミュニティのこと、看護のケアリングの考え方を地域まで広げる概念。



■配置図

●平面計画

- ・1階に外来やバックヤード、2階に病棟を配置した明快なゾーニング
- ・2階病棟は中央と北面にスタッフエリアを集約、病室は東・西・南面に配置し採光を確保

●構造計画

- ・中央2階建て部分はRC造、周囲の平屋部分はRC造+木造+鉄骨造で構成
- ・落雪時の事故を考慮し堆雪型の屋根を採用

●各諸室の主な特徴について

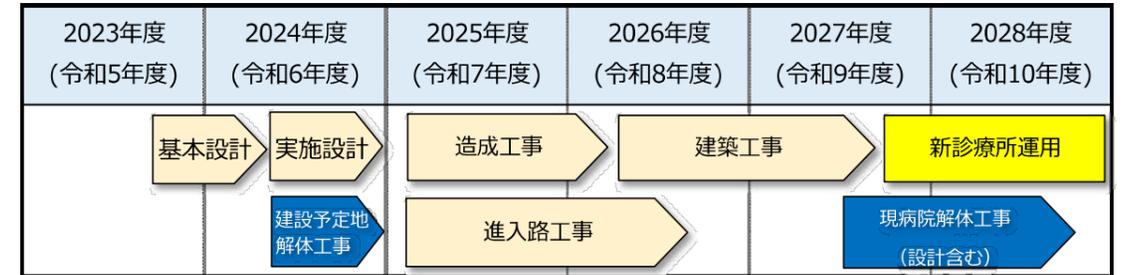
1F

- ① 地域の人を迎え入れる大きな南面の軒下空間
- ② スタッフ間のコミュニケーションを円滑にするワンルーム執務室
- ③ 診察室と検査部門・放射線部門に隣接した中央処置室とスタッフ・救急動線を考慮した外来医療バックヤード
- ④ 回遊廊下等の内装材等を木質化し温もりを創出
- ⑤ 冬季利用・搬入動線を考慮した車庫
- ⑥ 地域住民への健康教室等を開催できる多目的ルーム

2F

- ⑦ スタッフステーションに近接したEVや階段
- ⑧ 前室を設けた感染対応室(1床室)
- ⑨ スタッフステーションに隣接した観察対応室(1床室)
- ⑩ 4床室では1床ごとに窓を設けプライバシーに配慮
- ⑪ 冬期の日当たりに配慮したデイルーム

●想定スケジュール



●建築概要

計画地 福島県大沼郡三島町大登寺沢976
 用途 有床診療所
 病床数 19床
 診療科 内科、外科、整形外科、精神科、
 皮膚科、耳鼻咽喉科
 構造 RC造+木造+鉄骨造
 1F：外来・診察、執務室、外部車庫、
 栄養管理室、施設管理室
 2F：病棟

●広域地図



敷地面積 約10,300 m²
 延べ面積 1F：1916.06 m²
 2F：738.99 m²
 合計：2655.05 m²
 駐車台数 合計81台



■2階平面図



■1階平面図

本基本設計の内容については今後の実施設計で変更となる可能性があります。

双葉地域における中核的病院整備基本計画 概要版

令和7年3月 福島県病院局

双葉地域の特殊性

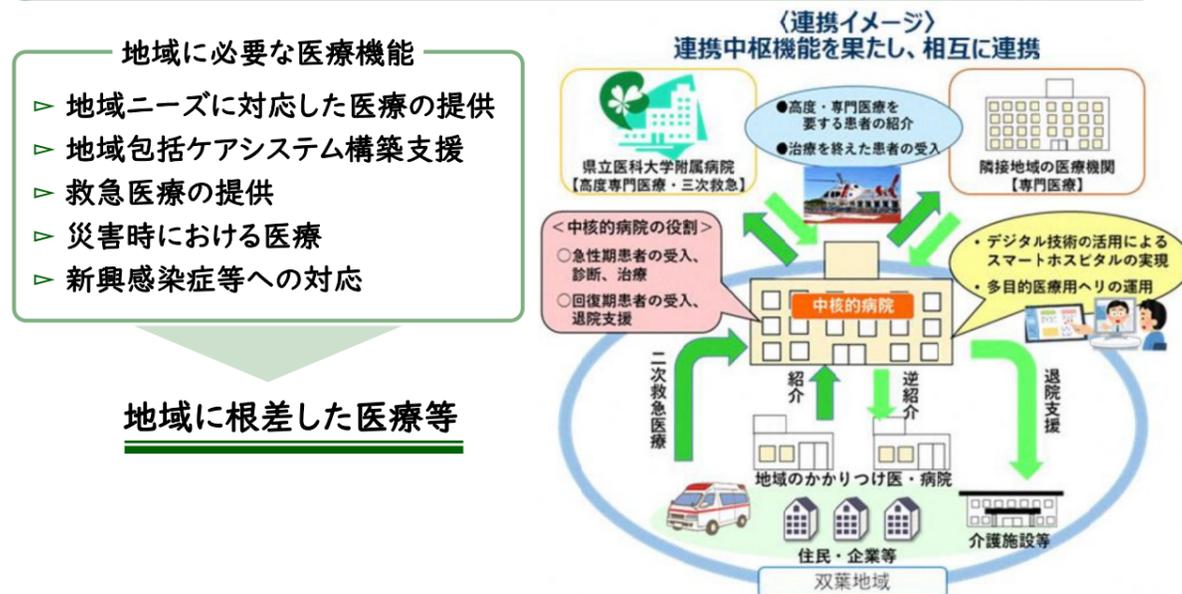
- ▶ 震災前と大きく異なる双葉地域の医療需要や医療提供体制
- ▶ 復興のステージが進み、医療や介護需要の増加が見込まれる

- **双葉地域の医療提供体制の中核を担う新たな病院を整備**
- **経営形態は公立大学法人福島県立医科大学の附属病院化**

1 全体計画

(1) コンセプト

1 地域に密着し、住民が安心して生活するための連携の核となる病院



2 地域の発展に貢献し、医療従事者に魅力のある病院

- 福島イノベーション・コースト構想や福島国際研究教育機構 (F-REI) との連携を視野に、地域の発展に貢献
- 充実した研究環境や教育・人材育成プログラムにより医療従事者に魅力ある病院を目指す

(2) 想定診療科

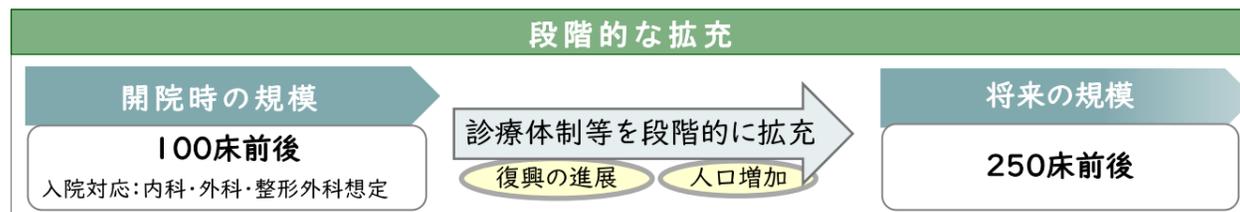
最終的には20科を想定。開院時の入院対応は、内科、外科、整形外科を想定。

内科(循環器、消化器、糖尿病、呼吸器)	総合診療科※1	外科	整形外科
脳神経外科	救急科※2	泌尿器科	皮膚科
耳鼻咽喉科	産婦人科	精神科	麻酔科
放射線科	リハビリテーション科	人工透析※3	

※1 院内標榜
 ※2 二次救急や休日夜間などの急病、自然災害や原子力災害医療への対応
 ※3 双葉地域の医療体制の整備状況(民間医療機関等での診療状況)を踏まえて対応

(3) 病床数

- 双葉郡各町村の復興計画や福島イノベーション・コースト構想等の復興関連施策を踏まえ、最終的に250床前後を想定(開院時は100床前後を想定)。
- 急性期機能(緊急被ばく医療・RI内用療法への対応含む)、回復期機能(包括期)、感染症への対応等



(4) 診療の考え方

【急性期】

- ▶ 「地域密着」医療(手術含む)への対応
- ▶ 高度・専門的な医療や三次救急は、中通りや浜通りの医療機関と連携
- ▶ 今後の復興に伴う医療需要の増加、地域の医療提供体制の進展に対し、民間等の医療機関と相互連携

【回復期(包括期)・在宅等の対応】

- ▶ 高度・専門的な医療や三次救急を担う医療機関からの「下り搬送」や急性期経過後の患者受入れに対応
- ▶ 急性期患者への早期リハビリテーションや急性期経過後の在宅復帰支援など一連の医療サービスの提供や地域包括ケアシステム構築支援

<主要な傷病に対する取組方針(最終的に20科となった場合を想定)>

傷病等	中核的病院での取組方針	他医療機関との連携
消化器	消化管内視鏡、一般外科手術	高度医療については、医大と連携
がん	・核医学を含めた画像検査・診断 ・手術療法のほか化学療法(入院・通院)、RI内用療法、放射線治療、緩和照射等の集学的治療	希少がん、血液がん、粒子線治療等については医大や専門病院と連携
外傷・整形疾患	・労災や交通事故による外傷一般の治療 ・整形外科疾患の診断と外科治療	重症外傷・高度治療は医大と連携
脳血管疾患	・主として脳神経系救急疾患の診断とrt-PAなどの初期対応 ・非侵襲的治療、回復期患者の受け入れ	血管内治療、手術は浜通りの医療機関、医大と連携
循環器疾患(心疾患)	・一般循環器疾患の診断・治療(カテーテル検査・治療を含む)	・浜通りの医療機関と連携 ・高度治療、心・血管外科治療は医大などと連携
救急医療	・救急患者全般への初期対応(特に心停止を含む事案への初期対応) ・被ばく汚染患者、災害対応等	専門性の高い救急医療については、浜通りの医療機関や医大などと機能を分担
産婦人科医療	妊婦健診や婦人科の外来対応、婦人科検診	分娩は浜通りの医療機関などと連携
小児医療	地域の医療機関と連携し、小児医療や夜間休日などの初期小児救急医療の外来対応	入院を要する救急医療、救命救急医療については浜通りの医療機関などと連携
精神医療	精神医療に関する国の方向性「入院医療中心から地域生活中心へ」を踏まえ、外来対応	入院については浜通りの医療機関などと連携
感染症医療	第二種感染症指定医療機関として二類感染症等の対応を想定 ※結核の入院医療は除く	当院で対応できない感染症については、隣接する医療圏の医療機関と連携

双葉地域における中核的病院整備基本計画 概要版

2 部門計画

外来部門

- ブロック受付方式やフリーアドレス診察室など可能な限り用途を限定しない計画とし、業務効率化や将来変化に対応する。
- 患者の待ち時間短縮や利便性向上を図るため、デジタル技術を活用したオンライン診療への対応を検討

病棟部門

- 開院時は100床前後で運用し、復興の進展や地域の医療需要などを踏まえ、段階的に病床数を拡充する。
- 療養環境の向上、感染管理の観点から、HCU、急性期病棟は全室個室とする。
- 将来の入院患者需要の変化に柔軟に対応できるよう、地域包括ケア病棟及び回復期リハビリテーション病棟は同型のつくりとする。

<最終的に250床となった場合の病棟構成のイメージ>

第1病棟	HCU	16床
第2病棟	急性期一般病棟(31)・RI病床(4)	35床
第3病棟	急性期一般病棟(31)・感染症病床(4)	35床
第4病棟	急性期一般病棟	35床
第5病棟	地域包括ケア病棟	43床
第6病棟	回復期リハビリテーション病棟	43床
第7病棟	回復期リハビリテーション病棟	43床
合計		250床

※上記病棟構成は250床の場合。効率的な病床運用等を考慮し、詳細は設計時に検討

救急部門

- 二次救急医療機関として24時間・365日の受入体制を構築する。
- 感染症患者の受け入れエリアを設置する。
- 緊急被ばく医療対応として除染室、専用病室(RI病床と兼用)を整備する。

災害医療部門・原子力災害医療部門

- 災害拠点病院として、災害時にも業務継続を可能とする施設・設備・体制を構築する。また、災害発生時に多数の傷病者等の受け入れや搬出に対応可能な体制を確立する。
- 原子力発電所の廃炉作業が行われている双葉地域に立地する病院として、福島県立医科大学附属病院や南相馬市立総合病院等の原子力災害拠点病院や福島第一原子力発電所と連携し、原子力災害医療協力機関として地域における原子力災害医療を積極的に担う。

主な診療部門

手術	ロボット手術が可能な大手術室・BCR(バイオクリーン手術室)・日帰り手術など5室まで拡充できる計画
画像診断・放射線治療	CTやMRI等の画像診断に加え、放射線治療(体外、体内)、核医学検査・治療(RI内用療法)に対応した施設計画
臨床検査	検体検査、細菌検査、生理機能検査に対応するとともに、遠隔診断などICTの活用も検討
内視鏡	内視鏡を用いた高度な検査・治療を実施
薬剤	搬送・調剤ロボット等を活用し、患者指導や外来化学療法(9ベッド)に対応
リハビリテーション	リハビリテーション部門における理学療法、作業療法、言語聴覚療法に加え、回復期病棟にリハビリテーションスペースを配置

3 研究・教育・人材育成に関する取り組み

- ◆ 「地域の発展に貢献し、医療従事者に魅力ある病院」とするため、福島国際研究教育機構(F-REI)の関係研究分野との連携を視野に、充実した研究環境の整備、特色ある教育・人材育成プログラムによる専攻医や医療系学生等の受け入れを行う。また、受け入れに必要な研修室やスキルスラボ等を整備する。

4 スマートホスピタル推進計画

- ◆ 人口減少の中で、人手不足の解消と患者サービスや医療の質の向上の両立を図るため、効率的な医療提供体制の整備を推進し、デジタル技術の積極的な活用による地域に密着したスマートホスピタルを目指す。
- ◆ 技術の進展や病院機能の変化、地域の発展に合わせてスマートホスピタルの取り組みを進められるよう、施設や設備は将来的な拡張性をもって計画する。

<デジタル技術活用例> ※導入範囲は今後検討

問診支援システム	患者指導デバイス	ケア支援ロボ	搬送ロボット
ロボットリハビリ	AI画像診断	職員間コミュニケーションデバイス	
RFID物品管理	オンライン診療	遠隔診療	アートセラピー

5 医療機器整備計画

- ◆ 双葉地域における中核的病院として、地域のニーズに応える医療を提供するために必要となる医療機器を整備する。
- ◆ 導入する医療機器については、技術革新や医療情勢の変革に対応するため、今後詳細に検討を進める。また、医療需要や病院機能の変化に対応し、段階的に機器を拡充できるよう拡張性をもった施設計画とする。

6 医療情報システム整備計画

- ◆ 医大とのシームレスな連携や地域の医療機関・介護施設・薬局との連携、セキュリティ対策に配慮した計画とする。

7 業務委託計画

- ◆ 医療サービスの質の向上や効率性の向上、専門性の活用、コストの適正化などを図ることを目的に、専門会社への業務委託を活用することとし、具体的範囲は今後検討する。

双葉地域における中核的病院整備基本計画 概要版

8 施設整備計画

方向性

- ① 双葉地域の安心を支えられる病院づくり
帰還、居住、移住する方、企業や団体等で働く方等の安心を支え、国際対応含めた利用者の多様性に配慮した施設
- ② 質の高い医療を効率的に提供できる病院づくり
機能的な部門配置やスマートホスピタルの推進により、質の高い医療サービスを効率的に提供
- ③ 快適な療養環境と働きやすい環境が整った魅力ある病院づくり
プライバシーやアメニティに配慮した快適な療養環境を整備するとともに、利便性に優れた施設
業務負担を軽減して診療に専念できる施設環境、教育・研究機能の整備
- ④ 災害や新興感染症に強い安全・安心な病院づくり
大地震や集中豪雨などの災害の際にも医療機能を継続し、感染症のパンデミック発生時にも対応できる施設
- ⑤ 将来の変化に柔軟に対応できる病院づくり
双葉地域の復興の進展、技術の進歩、医療・介護ニーズや社会環境の変化に柔軟に対応できるよう可変性・拡張性をもった施設・設備を整備
- ⑥ 環境にやさしく、経済性・効率性にも配慮した病院
省エネ・創エネなど地球環境に配慮するとともに、病院運営・経営に考慮し、ライフサイクルコストの縮減可能な施設
- ⑦ 早期開院に向けた取り組み
設計や開院準備などの病院整備における様々な段階において、早期開院に向けた取り組みを検討

建築・構造・設備・附帯設備

- 誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮した計画（バリアフリー、サインの多言語表記等）
- 大地震発生後も医療機能を継続できるよう免震構造を採用
- 将来の機能変化に対応できる工法の検討の他、病室や診察室はできるだけレイアウトや室内設備の共通化を図るなど、改修が容易な施設計画を検討
- 設計時に整備や運用に係るコストに配慮した上で、再生可能エネルギー導入やZEB化を検討するとともに、内装等の木質化を検討（県産材を積極的に活用）
- 多目的医療用ヘリのための場外離着陸場（屋上）や格納庫（現有地外）等を整備
- 現有地内に整備する患者駐車場は設計時の諸室配置や建物配置等を考慮して検討するとともに、タクシーや公共交通機関の利用を考慮し、ロータリーや屋根付き昇降場の整備を設計時に検討



設置場所	県立大野病院が建っている現有地 (双葉郡大熊町大字下野上字大野98-1)
面積	敷地面積(現有地)：約26,000㎡ 想定延床面積：約25,400㎡
関係法令等	用途地域：指定なし(都市計画区域内) 建ぺい率：60% 容積率200%
その他	・土砂災害警戒区域外、津波浸水想定区域外、洪水浸水想定区域外 ・職員用駐車場や医療需要が増加した際の患者駐車場、格納庫を確保するため、近隣の土地取得を検討

9 整備スケジュール

物価の変動等の環境変化にも対応が容易、かつ性能確保の観点からも安定した整備手法である「設計・施工分離発注方式」とする。また、整備工程の精査などにより、できる限り早期の開院を目指す。

	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	R11年度以降 (2029~)
基本構想	[Progress bar from R5 to R6]						
基本計画	[Progress bar from R6 to R7]						
調査、基本・実施設計	[Progress bar from R7 to R9]						
現病院解体(設計含む)	[Progress bar from R6 to R8, with '設計' label in R6]						
造成、建築工事(外構工事含む)	[Progress bar from R9 to R11]						

10 その他

福島県ふたば医療センター附属病院及びふたば復興診療所については、中核的病院の開院に合わせての統合及び廃止について検討を進める。